



すまいる

s m i l e

2007 vol.15 **夏**
 きづ川
 季刊・年4回発行

すまいる
 きづ川
 2007 vol.15
 夏
 季刊 ● 年4回発行

昭和初期 山城・夏の食

夏、この季節はありがたいことに、なす、きゅうり、とうがらし、かぼちゃ、しろりり、加茂りり、時無大根などがとれ、食卓をうるおす材料にはこと欠かない。なすのおしたし、でんがく、きゅうりの味噌あえ、酢もみ、焼とうがらし、かぼちゃど加茂りりの煮もの、大根おろしなど、どれたての野菜がふんだんに食卓にのぼる。魚は干だらの三杯酢などが喜ばれるが、汗をかいて塩からいものが多い時は塩づけを焼いてつけることも多い。

(農文協刊 日本の食事全集より 山城の夏編 抜粋)

こんにちは、肉食を主として胃腸の処理能力を超えて食べつづけたあげく、メタボリックシンドローム(内臓脂肪型肥満)が40代以上の4人にひとりとか。私たちは毎日できるだけ食物繊維の多い野菜や豆類、いも類、果実、穀類、海藻類などを摂取して健康を維持し、増進することに努めましょう。



News

きづ川病院
 病院内の行事や予定などのお知らせです。また、病院のホームページでは、最新の情報を掲載してまいりますのでぜひ、ご覧ください。 <http://keishinkai.dip.jp>



市民健(検)診のお知らせ きづ川クリニックにて 月～土AM8:30～11:45 実施中!!

実施期間 平成19年6月1日(金)～9月29日(土)

大腸・前立腺・肝炎ウイルス検診は9月29日(土)までに基本(介護予防)健康診断と同時受診でないと受けられません。

受診対象者 城陽市・宇治市・久御山町に在住の40歳以上の市民

健(検)診名・内容	対象者	一部負担金 (一部免除制度あり)
基本健康診査 (血液・尿検査等)	40～64歳以下の市民	1,000円
介護予防健康診査 (血液・尿検査・生活機能評価等)	65歳以上の市民 (介護予防健診のみの受診は平成20年3月29日(土)までです。)	1,000円
大腸がん検診 (便潜血反応検査)	40歳以上の市民で基本(介護予防)健康診査とセット受診	700円
前立腺がん検診 (血液検査)	55歳以上の男性市民で基本(介護予防)健康診査とセット受診	200円
肝炎ウイルス検診 (血液検査) *定期的に肝機能検査を受けている人は受診出来ません。	40歳以上の市民で①～③にあてはまる人。 基本(介護予防)健康診査とセット受診 ①節目検診：昭和41年度生まれの人 (昭和41年4月1日～昭和42年3月31日生まれ) ②平成14年～18年度の本検診対象者で未受診の人 (昭和6年4月～昭和41年3月生まれ) ③平成19年度の基本(介護予防)健診においてGPT値により要指導となった人 *②③の人は保健センターへ直接または電話による申し込みが必要。	500円



*受診時、健康手帳・健康保険証をお持ちください。(健康手帳は保健センター・国保医療課にあります。)
 *健(検)診結果は保健事業に役立てるため、実施主体の市町村等に報告されることをご了承ください。
 *健(検)診は期間中、1回しか受けられません。2回目以降は全額自己負担となります。
 *自覚症状のある方は、健(検)診を待たずに受診してください。



最良の医療サービスを提供するために、皆さんからのご意見をお待ちしております。
 医療に関する疑問、質問など、お気軽にお寄せください。

啓信会グループ

京都 四条病院
 TEL.075-361-5471 FAX.075-343-9211
 京都きづ川病院
 TEL.0774-54-1111 FAX.0774-54-1118
 きづ川クリニック
 TEL.0774-54-1113 FAX.0774-54-1115
 介護老人保健施設 萌木の村
 TEL.0774-52-0011 FAX.0774-52-0701

●在宅サービス
 訪問看護ステーション きづ川はろー
 訪問看護ステーション 萌木の村
 ヘルパーステーション 萌木の村 21
 ヘルパーステーション リエゾン大津
 ヘルパーステーション リエゾン大久保
 ヘルパーステーション リエゾン四条
 介護予防デイサービスセンター リエゾン萌木の村
 居宅介護支援事業所 リエゾン大津
 居宅介護支援センター リエゾン四条
 城陽市在宅介護支援センター 萌木の村

●地域密着型サービス
 デイサービスセンター リエゾン萌木の村
 グループホーム リエゾンくみやま
 ●教育部門
 ヘルパースクール 萌木の村 大久保校
 ヘルパースクール 萌木の村 大津校
 ●乳幼児健康支援一時預かり事業所 京都きづ川病院



医療法人 啓信会 京都きづ川病院

〒610-0101 城陽市平川西六反 26-1 TEL 0774-54-1111 FAX 0774-54-1119
 URL <http://keishinkai.dip.jp>

コムスンという看板の思い出

医療法人啓信会 理事長

中野博美



昨年末、訪問介護のコムスンに不正があり、東京都の指導を受けているという話を聞きました。しかも相当厳しい指導になりそうであるとのことでした。どうなるか、と思っていました。その後の経過は報道にあった通りです。

介護保険は、導入時より全国偏りの無い普及を図るために、医療保険と違って民間会社の参入を認めました。そして、厚生労働省の見込み通り介護保険は着実に拡大しましたが、初回の改定に当たって調査してみると、「軽要介護度」「都市部集中」「民間会社」という3つのキーワードが目立っていました。これは大方の医療関係者の予想通りで、「民間会社は軽要介護度の事業を効率のよい都市部で行うだろう」という考えに合致したものでした。民間会社が、地域の介護需要そのものより事業効率性を優先した結果、上記のキーワードが目立ったものと考えられます。「介護保険は絶好のビジネスチャンスだ」と公言した折口雅博氏が介護事業に参入したとき、医療・介護関

係者の誰もが危惧を口にしており、やはり現実のものとなってしまったのです。医療や介護の世界では法令遵守のための規制が厳格であり、到底考えられない行為であると言えるでしょう。多くの民間会社は法令遵守に厳正な対応をされていると考えますが、中には医療に対する認識の低いところがあり、上記のような結果を表すことになったのかもしれない。

今から20年近く前になるでしょうか、榎本憲一さんという方が北九州でコムスンという会社を作られました。コムスンは、元病院事務長の榎本さんが私財を投じて作られた会社で、24時間訪問介護を行う介護事業の先駆けでした。榎本さんの真摯に理想を追求する姿勢で運営されるコムスンは、利用者の信頼を得て徐々に発展していきました。折りしも高齢者介護問題に取り組んでいた旧厚生省が、コムスンの活躍を聞きつけ交流が始まりました。更に研究会・モデル事業などが持たれて交流は発展し、最終的に介護保険が出来たのです。コムスン

は正にお手本だったのです。しかし、理想を追求する榎本さんの方式は、ややもすると採算性を度外視することもあり事業は立ち行かず、介護保険施行頃にイベント業で台頭していた折口雅博氏に売却されました。その頃に私は榎本さんと食事をする機会があり、介護事業に関して指導をして頂きました。榎本さんは、事業を失ったためでしょうか、それとも意中ではない人物に譲渡したためでしょうか、がっくりと肩を落とされたいらしたのが印象に残っています。その後榎本さんは宮城県の登米へ行かれ、最終的に北九州へ帰られて介護事業をされましたが、残念ながら病気で他界されました。折口雅博氏の会社が大きく発展した後に、数々の不正を働いて社会的制裁を受けたことには全く違和感はありません。しかし榎本さんの作ったコムスンという名前が、悪い看板の代名詞のように言われていることは、本当に気の毒でしょうがありません。

合掌

医療法人啓信会 「あゆみ」より抜粋

教育の課題

②

広中平祐

「完璧主義」



う風にこれから詰め合わせて行くかというところが問題なんです。

高等教育の立場で言うと、一つ我々が真剣に考えなければいけないのは「非完璧の活用」ではないだろうか。僕は言っているのです。

要するに完璧主義というのはもう通用しなくなる。いくら立派な理念を言ってもそれだけで燃えるような若者は少ないわけですね。なかにはいます。そういう人達はいつでも何%かはいるわけですが。全体的に見ると立派な理念、立派な講義をしさえすれば燃えて来るといような学生ばかりじゃないわけです。

「非完璧」といっているのは完璧ではないということ。例えば数学なんかでも、数学1とい

ここで教育ということを考える時に

2層の問題があるわけです。一つは日本の将来をリードしてくれるようなエリートを育てなきゃいかんと。何人かはそういうエリートがいないと。リーダーがいないと日本の将来というのは心配だという考え方があつたわけです。

けれどももう一方ではたくさんの人を教育して、たくさんの子供がとにかく役に立つように、ちゃんと仕事をできるようにになって欲しいと。少なくとも現在の先端技術、あるいはその先端的なビジネスのやり方とか研究、教育の作業というものをちゃんとできるぐらいになって欲しい。そういう意味で教育というものがすごく大衆化して来ているわけです。この「教育の大衆化」というのを一番肌で感じるのは大学です。

ご存知のように大学というのは毎年新しい大学が20近くできます。そして子供の数は特に18才人口はどんどん減っているわけです。だから小さい私

立大学：特に地方の大学の場合にはもう定員が満たされなくて困っています。

その傾向は国立大学でも次第に始まって来ているわけです。勿論国立大学の場合、今のところ定員が足りないということはないんですが、入って来る生徒というのがピンからキリまでと言っても良いぐらい色々なレベルの子供達が入って来るわけです。

大学の教育も高等学校の教育も次第にそのようになって来ているわけです。言わば高級料亭から大衆食堂に様変わりしたというような感じで、京都だったら「一力さん」みたいなところで「イチゲンさんお断り」なんて言うところを、やっとなんて貰い入って行って「今日の夕食代は幾らぐらいでしょう」なんて言ったら「値段を聞くような人はどうぞお帰り下さい」なんていうようなことで。端的に言うとな昔の国立大学：特に一流の国立大学なんていうのはそんなことやっていたわけですね。試験して入って、そして講義が分かるのと分かるまいと立派な講義

さえしておれば：「分からないのは学生が悪いんだ」という感じでしたね。

ところが次第に大衆化して来るとちょっと大衆食堂みたいなもので：東京のような超大都市にはたくさん大衆食堂があります。入って行って300円ぐらいのうどんでも食べて、出て行くときには「有難うございました。またいらつしやい」とか何とか言われて、悪い気はしない。また来るといふわけですね。そしてメニューにもピンからキリまでたくさんあつて、高いものから安いものまで。端的な言い方をすると、大学にもそういうふうの大衆化がどんどん始まっているわけです。

だけど大学の先生の意識というのはなかなかそういう大学の「大衆化」：そういう大きな変化について行けないんです。あるいは、それをまともに受け止めようとしません。サプライサイドの論理で、自分立派な講義をしていて。分からないのは向うが悪いんだというふうな感じですね。特に地方の大学の場合、このギャップ、教える側と教わる側の意識のギャップをどうい



広中平祐 (ひろなか へいすけ)

数学者、数理科学振興会理事長。
1931年生まれ。
京都大学理学部卒業。ハーバード大学大学院博士課程修了。ブランダイス大学准教授、コロンビア大学教授、ハーバード大学教授、75年に京都大学数理解析研究所教授、同所長などを歴任。96～01年山口大学長。04年より創造学園大学学長。84年(財)数理科学振興会を設立し日本で高校・大学向けの合宿セミナーなどの活動続ける。64年リサーチ・コーポレーション賞、67年朝日賞、70年フィールズ賞、同年日本学士院賞を受賞。75年文化勲章、2004年レジオンド・ヌール勲章を受章。
著作に「代数多様体の特異点解消理論」「解析空間入門」「学問の発見」「広中平祐の家庭教育論」「私の生き方論」「代数幾何学」など。

うのは大体経済に行くとか生物、医学部に進むとかその程度の人達が取っているわけで、数学50なんていうのは大体数学者あるいは物理学者になるうなんていう人達が初めから取る。中には数学100を取るなんていう人達がいるんですね。

ところが数学1でも単位が取れない生徒が出てくる。これはいかんと言うので数学0というのを作ったわけです。それでもまだ落ちこぼれる人がいて、仕様がなから数学マイナスイと(笑)。実際には0とかマイナスイとは言わないで数学A、数学Bなんて言うって良い名前をつけたんですけれども。数学Bなんていうのは、それは単位にならないけれどもそれを取らないと、もう数学Aが取れないと。数学Aが取れないと数学1を取る資格はできないというようなことをやるわけです。

これは良いんだと。勉強させるために宿題を出すんだと。宿題で何とかして良い点を取ろうと思って、そのために勉強するんです。そのことが大切なので採点なんか間違っついても良いというぐらいの考え方なんです。

日本では

この考え方が日本の大学に持ち込まないだろうか。日本は色々な面で完璧主義があります。

例えば：これはちよつと話が飛んで申し訳ないんだけど、北海道でヨーロッパの数学者やアメリカの数学者を呼んで会議をしたことがあるんです。その時に彼等が道路上のハイウェイに瓜とか何かを売っているのを見て「安いだろう」と言ったら、「夕張メロン」とか何かの一つが1200円とか1300円とかするので目をむいて帰って来るわけです。

「何であんなに高いんだ」って。それは高いのは当たり前で、単に味が良いだけじゃなくて色も形も良くてどこから見ても同じような形になっている。そうでないものは全部捨てるんだから選り抜かれた一つ一つが高いのは当たり前だ。

このような「メロン主義」というのか、そういうものが日本にはあるわけ

もう本当に数学Bなんて言うとなんかの足し算まで教えるわけです。そんなことは実際に数学教室が持っている教官数では対応できないわけですね。数学Bなどというのは夕食後に4〜5人集めて手とり足とりで教えるわけですね。高等学校では、場合によっては中学の数学も教えなきゃならない。

そんな時に我々の数学教室がどうしたかと言うと、プリセプターという教師を作りました。大学というのはかつては、少なくともPhDを取得した研究の優れた人がインストラクターに選ばれて採用され、やがては助教授となり、さらには準教授になり、やがて教授になって行くというランクがあったわけです。

それらだけの教師ではどうも上手く大衆化に対応できないというのでプリセプターと言う新しい職をもうけてください。そんな時に我々の数学教室がどうしたかと言うと、プリセプターという教師を作りました。大学というのはかつては、少なくともPhDを取得した研究の優れた人がインストラクターに選ばれて採用され、やがては助教授となり、さらには準教授になり、やがて教授になって行くというランクがあったわけです。

その様な考えを大学教育にまでも、どういう風に組み込んで行くかというのはこれからの：特に我々のような田舎の大学の大きな問題だと僕は思っています。

教員の定員削減の中で、生徒が多様化して上から下まで差が大きくなって、そういう現実の中でできるだけの学生に高度の教育をして卒業する時には即戦力も身につけて、社会のために役に立つようにしよう。一見すると無理といえるような問題が出て来ているわけです。

そういう「大衆化の問題」と先程言った「エリート」を育てなければいけないという問題との二つを抱えているのが現在の高等教育の姿ではないかと僕は思います。

この二つを同時にどういう風にやるんだらうということなんです。この辺で差異化ということの本気で考えなければいけないのではないだろうか。

最近、「差異化」という言葉がよく出て使われるようになったんですが、差別化ではなく差異化だと。差異化というのは差があり異なるということ

ディグリーは何もなくても教え方の上手い人を雇う。やがてはそのプリセプターというのも任期制だったんですが、何年か教えてこの人は本当に教えるのが上手いということになるとシーニアプリセプターと言ってディグリーのない人でも実質的(形式的ではない)ティニユアを与えていたわけです。そういうことまで真剣にやったわけです。それでもまだ足りない。

そうすると当然ティーチングフェローとか言って給料を貰う大学院生の生徒なんか教えるわけですが、それでもまだ足りないということになると今度はコースアシスタントと言って3年生が2年生を教える、2年生が1年生を教える。補習授業を教えさせるわけですね。教える生徒の数で小遣いを貰うというような、いわば代用教員を多数採用したわけです。

決して彼等は完璧な教育ができたわけじゃないです。時々間違ったことを教えていました。学生に大学へ入ってうんと勉強させるために一番良いのはワンアデイバイタミンと言ってました。実は、そういう市販のビタミンがあつて、ビタミンというのは一挙にたくさんためて飲んだつてくるくなくはないんで、毎日一粒飲むのが良いんだという考え方です。

ですね。差異というものをはっきり認めようじゃないかと。そういう考え方がです。教育においても差を知って差を楽しむという形を何らかの方法で見つけるべきじゃないかと。そういうものを教育の中の：家庭教育であれ学校教育であれ：走るのが速い子供がいても良いわけだし、のろい子供がいても良いわけだし、頭の回転が速い子供がいたら大いに伸ばしてやれば良いわけだし、そしてまたのろい子供がいても良いわけだし。

利根川の鼠

教育においても差を知って差を楽しむという形を何らかの方法で見つけるべきじゃないかと。そういうものを教育の中の：家庭教育であれ学校教育であれ：走るのが速い子供がいても良いわけだし、のろい子供がいても良いわけだし、頭の回転が速い子供がいたら大いに伸ばしてやれば良いわけだし、そしてまたのろい子供がいても良いわけだし。

頭の回転がのろいということでも一つ話があるんですが、「利根川の鼠」の研究をしているそうなんですが、鼠がどういう学習をするかということテストしたりするんです。

大きな水槽があつてその中に鼠を放り込むんだそうです。鼠というのは水に放り込まれると本当に嫌がって、早く水から上がろうとしてあちこち泳ぎ回るわけです。そして踊り場を見つけるとすぐそこに上がってほつとする。

ただど鼠の中でも頭の回転の早い奴とのろい奴がいて、記憶力の良い奴は一回か二回やると三回目ぐらいからはすつとその踊り場へ行つてぱつと上



とをやるわけです。それで採点しても時々間違つた採点をしたりするわけです。

だけどそれは、非完璧の活用。なんです。とにかくたくさんの人に：採点が間違つても良いと。要するに学生が勉強すれば良いんだと。勉強することが大切なので、ピンからキリまでいるどの学生も一生懸命勉強してく

がるというわけです。ところがアホな奴は何回やってもうろろして最後に見つけてやつとほつとするそうです。ところがちよつと人間が意地悪して踊り場の位置を変えてやるんだそうです。そうしたら記憶力の良い奴は元あつたところにさつと行つて、行つてみると今度はなくなつたんで慌ててアップアップしたりする。ところがアホな奴はまたうろろして探してちゃんと乗つかつて安心する。

時には意外とアホな方が良い場合もあるんじゃないかと。まあ昔から運鈍根と言いますが：鈍というのも悪くないんじゃないかという考えもあるわけですね。要するに何が上とか下とかじゃなくて、それぞれ特色をもって成長させ、それを伸ばして有効に働かせるような形で教育してやるということが大切なんだと思います。

そういう点で小学校から中学校、中学校から高等学校、高等学校から大学へと進学の方針も、もう少し形を変えなきゃいけないかと考えるわけですね。(完)

2000年 4月23日 京都プライベートホテルで行われた「第130回 学術講演会」をまとめた第300号「あゆみ」(発行 医種学 啓原堂)から抜粋して2回に分けて掲載させていただきました。

大腸検査の前には腸はきれいに!

「それでは大腸の内視鏡検査を行いましょう。」大腸の病気を見つけるため、或いは治療を行うため担当医からそう言われたとしましょう。漠然とお尻から内視鏡を入れ大腸の中を観察してもらうのだなということもわかって、そこに至るまでに様々な準備が必要であることはすぐには理解できないと思います。



今回は大腸内視鏡検査(治療)を受ける前に必要な前処置についてのお話です。

何も処置を施していない大腸は残渣や便が壁にこびりついているものです。そのままの状態です。内視鏡を挿入しても、真っ暗な通路を歩けと言われていたようなもので、通路の壁にできている異常を目で発見することはできません。大腸の検査の前には以下の前処置を行うことで大腸がきれいな姿に生まれ変わり、検査中に腸を洗う時間が減る、挿入がスムーズになるなど楽な検査を行う手助けにもなります。

下記に当院で行う腸内視鏡検査の流れを示します。

このような流れで検査を行うことによって患者様にとってもよりよい検査になるものと考えております。



大腸内視鏡検査までの流れ

前日

- 水分** 朝食、昼食、夕食、普通に食べられます。*ただし、夕食は繊維質の多い食品を避けてください。(例:きのこ、海藻類、こんにゃく、種のある果実など)
- 水分** 実のあるジュースや乳製品は飲まないで下さい。お茶やお水は飲んでかまいません。
- 下剤** 午後9時に「ラキソベロン」(下剤)1本をコップ一杯の水またはお茶に入れて、飲んで下さい。

検査当日

- 食事** 朝食、昼食は食べられません!!
- 水分** 水分(お茶・水)は制限ありません。
- 下剤** 午前7時より、「マグコロール」(腸内を洗い流す薬)1,800mlを約1時間で飲んで下さい。
*医師の指示によりますが、心臓病、高血圧、喘息などの薬を服用中の方は、上記の下剤を全て飲み終えた後に服用して下さい。

病院へは、検査時間30分前に来院して下さい。受付をしてから、内視鏡室へお越し下さい。ただし、下剤を服用しても一回も排便がなかった場合は、来院予定時間より30分~1時間早くにお越し下さい。透明な水様便になれば、検査が出来るようになります。

検査の流れ

- ① 内視鏡室で検査用の病衣とパンツに着替えてもらいます。
- ② 血圧を測り、右腕に点滴をします。
(水分補給および検査時に使用する注射をスムーズに行うため)
- ③ 検査室へ移動します。
- ④ 開始直前に検査がスムーズにできるように、点滴のチューブから鎮静剤を注射します。
*鎮静剤は少し眠気をもよおしたり、足元がふらつくことがあります。
検査中は腸内を見やすくするために、^{基本方針}空気がたくさん入りますので、どんどんガスを出して下さい。
- ⑤ 検査終了後20~30分および点滴が終わるまで、安静にさせていただきます。
- ⑥ 医師から結果説明があります。組織検査をされた方は、2週間後、消化器内科(クリニック)を受診して下さい。
*食事は検査後から食べられます。ただし、組織検査をされた方は、出血の可能性があるので、アルコール・刺激物は避けて下さい。費用は3割負担の方で約5,000円がかかります。



※介護予防デイサービスセンター※ (リエゾン萌木の村)が開設しました



医療法人啓信会では、この度、「要支援1」と「要支援2」の方を対象とした、介護予防デイサービスセンターリエゾン萌木の村を5月21日に開設致しました。介護予防のみのデイサービスは、京都府内でも先駆けということで周辺地域の高齢者の方だけでなく、地域の支援事業所や各種団体からも高い関心をお寄せ頂いております。

介護予防は、平成18年4月より実施された施策で、要介護状態の高齢者が増加しないよう水際で防ぐ目的があります。従来は介護を要する方に対し手厚いサービスを実施してきたわけですが、最近では要介護状態にならないよう支援していくことこそ重要であるとの考えに移行しています。

当事業所では、東京都老人総合研究所が開発した「高齢者包括的運動トレーニング(CGT)」を導入し、要介護状態に陥らないよう筋力や柔軟性、バランス保持力を高めるトレーニングを、実践することで少しでも日常生活を有意義に過ごして頂ける事を目指しています。

そして、介護予防という考えから「自立」「自己実現」を大切に、援助者があれこれ手を差し伸べるのではなく、血圧や体温の測定・記録をはじめプログラムの選択、トレーニングマシンの設定やお茶の用意まで、できる限り利用者様自身にお願いしています。



営業は月~金曜日、午前と午後の2部に分かれており3時間程度、定員は各10名となっています。4種類のマシンを使用して行うトレーニングの外にも、マッサージ、パソコン教室、押し花づくり、栄養指導(料理教室)、岩盤足浴、カジノゲームなど何と20種類以上!のメニューを取り揃えており、利用者様の選択肢や自由度がより高められればと考えています。来所されるとまず、自分でその日の計画を立てて頂き、その計画に合わせて理学療法士をはじめとした専門のリハビリ職員や介護予防運動指導員、管理栄養士等が指導、援助します。



6月12日の京都新聞紙上にご利用中の様子が紹介されました。当日は電話での問い合わせが殺到し介護予防に対する関心の高さを実感しました。今後も地域高齢者様のニーズにお応えできるよう、また信頼していただける事業所を目指しスタッフ一同頑張っております。

見学も随時受け付けております



0774-54-7501